

The Open Group Glasgow Conference ハイライト 第三日目

* 開催日時:2008年4月21日(月)~4月23日(水)

* 開催場所:Radisson SAS, Glasgow

* OPEN GROUP Conference in Glasgow

<http://www.opengroup.org/glasgow2008/>

イギリススコットランドのグラスゴーで開催された第18回アーキテクチャ・プラクティショナ・コンファレンスの第2日の夜には Kelvingrove Art Gallery & Museum でレセプションが開催された。

そして最終日の全体会議は Allen Brown 氏, President and CEO, The Open Group の開会の挨拶から始まった。

続いて Josh Street 氏, Technology Strategist, Bank of America が全体会議の最初に“Leveraging SOA in Enterprise Architecture”というテーマについて“Legacy SOA – Bringing SOA into the Real World”という講演を行った。この中で Street 氏は SOA を導入する際に組織が直面するプロジェクトに上のチャレンジについて議論を展開した。

彼は、導入の成功の鍵は解決したい問題、例えば機敏化 (agility) や簡素化を明確にすることであると述べた。また、彼によれば、アーキテクトも、エグゼクティブに進捗と金額価値を示すためには何を管理し測定しなければならないかを決める必要がある。さらに、アーキテクトはテクノロジーの実装を手掛ける前にビジネス、-戦略とは異なるものである-、について十分理解している必要がある。なぜなら SOA はビジネスをさらに機敏なものにするためにビジネスを理解することそのものである。終わりに Street 氏は実装の標準の策定と管理団体についての提言を行った。

次に、Chris Howard 氏, VP and Service Director, Executive Advisory Program, Burton Group、は“Fighting SOA Fatigue”という講演をおこなった。SOA が成熟していくには誰もが考えたより時間がかかる。彼は、技術的、設計、プロジェクト、管理の領域における課題とともに、無数のベンダーからのメッセージが漂う世界におけるいくつかの課題について論じた。現実的なリスクも存在している。例えば閉ざされた SOA に通じるまだ未着手の文化的な問題とかビジネスも以前は IT とは関係がなかったという事実とか。しかしながら、エンタープライズ・アーキテクチャーは、正しく使われれば、結果を指向であり、またより容易により設計をするようにできる。

そして EA は SOA プロジェクトに適合性と意味づけを提供する。ハワード氏は SOA だけを強調しすぎることは企業のゴールとビジネス妥当性を損なうと警鐘した。SOA 疲れは現実だ。我々がなすべきことはより高度なレベルで会話をすることです。

最後の講演は“Operationalizing SOA”というタイトルで Tony Carrato 氏 Worldwide Chief Operations Architect, SOA Advanced Technology, IBM によって行われた。Carrato 氏は SOA の展開と管理フェーズに焦点を当てた。現在までほとんどの議論はフロントエンドについてのものであった。今、我々は現実に行われなければならないと彼は述べた。彼は聴衆に SOA の運営について考えるよう促した。なぜならエンドユーザは、アーキテクチャや開発のやり方などより、稼働しているシステムのことの方を気にする。アーキテクトは、運用チームとのやり取りを早めに開始する必要がある。そして、設計する際に、アーキテクチャ上の課題として運用上の懸案事項も考慮すべきである。現在 SOA ワーキンググループおよびオープングループの人々でこのことを研究している。Carrato 氏は聴衆にも参加を呼びかけた。

全体会議の最後はパネル討論であった。Dr. Chris Harding 氏, Forum Director, The Open Group, UK が司会を務め、午前の講演者の Tony Carrato 氏, Worldwide Chief Operations Architect, SOA Advanced Technology, IBM、Chris Howard 氏, VP and Service Director, Executive Advisory Program, Burton Group、および Josh Street, Technology Strategist, Bank of America が参加した。聴衆に対して簡単な調査をした後、SOA にかかわる様々な課題について質問に答えた。議論されたトピックスとして、プロジェクトモーメンタム、適正なガバナンスの必要性、障害管理と成功分析、SOA がどのように進化するか、そして SOA プロジェクトにおけるセマンテックスの重要性-物事がどのようによばれるか-、などがあつた。パネリストは SOA プロジェクトがもたらす文化の違いについても触れ、ビジネス能力やプロジェクトを実行することに焦点を当てるように奨めた。

午後のプロフェッショナル育成トラックでは、Sarina Viljoen 氏, Real IRM, South Africa が“Case Study: EA a Key Enabler for Information Flow in the Organization”を紹介した。その際、Viljoen 氏はテレコムサービスプロバイダーにおけるエンタープライズ・アーキテクチャーの役割を具体例として取り上げた。SOAトラックでは、Dr. Chris Harding 氏, The Open Group, UK が前日の朝に開催された SOA と EA ワークショップについての報告を行った。

Wayne Horkan 氏, CTO for the UK & Ireland, Sun Microsystems, UK および UK Wayne Horkan, CTO for the UK & Ireland, Sun Microsystems, UK はエンタープライズ・アーキテクチャのケーススタディ 3 件を、ベストプラクティスと教訓を骨子にして、彼自身の経験に基づき、プロフェッショナル育成トラックで紹介した。

ビジネスアーキテクチャのトラックでは、Peter Fellows 氏, Deputy CTO, CGI Northern Europe, UK と Nick Coleman 氏, CTO, CGI ISMC が“Responding to Business Innovation, Growth and Retrenchment in the UK Mortgage Industry”と題して講演した。Fellows 氏と Coleman 氏は住宅ローンビジネスにおけるビジネスアーキテクチャの概要を、資本市場モデルと預金貸付モデルの双方について、述べた。そして IT アーキテクチャが成長、チャンネル革新、経費削減への圧力に応えることができる方法を検証した。紹介のあったケーススタディでは、アーキテクチャビジョンも重要であったが、ビジネス価値を支障なく提供する柔軟なアーキテクチャロードマップがより重要であったと述べた。

SOAトラックで E.G. Nadhan 氏, Distinguished SE and Lead Technologist, Global Strategic Capability Management, EDS は「サービスベースアーキテクチャ ライフサイクルとガバナンスモデルの主要特性 (Key Attributes of a Service Based Architecture Lifecycle and Governance Model) 」について講演を行った。その中で、洗練されたサービスベースアーキテクチャを享受する力を、アーキテクチャ ライフサイクルとガバナンスモデルがどのようにすれば企業に提供できるかを述べた。Nadhan 氏はライフサイクル全体を通じてすべてのアーキテクチャを開発し管理するためのモデルを概要を紹介した。

続いて、Jerome Bugnet 氏, Enterprise Architect, BEA Systems, UK が“SOA Governance: Three Practical Steps to Tackle the Thorniest Aspect of SOA”というタイトルで講演をおこなった。Bugnet 氏は実用的で、利用しやすく、かつビジネス利益に直結した SOAガバナンスの実施について実績のあるアプローチを紹介した。

プロフェッショナル育成トラックでは次に Association of Open Group Enterprise Architects (AOGEA) の支部によるが実世界での経験に関する 2 件の講演が行われた。一つはトロント支部、もう一つはオタワ支部から、それぞれ、Jason Uppal, Chief Architect Master Certified IT Architect, QRS と Bob Weisman, Partner and Executive Consultant, and Enterprise Architecture Practice Leader, CGI が担当した。

ビジネスアキテクチャトラックでは Pieter van Kampen 氏, EMEA Enterprise Architecture Lead, Hewlett Packard, Netherlands が“The Role of Business

Enterprise Architecture in HP' s Own Transformation.”という題で HP がどのようにして MIT の研究にした“Enterprise Architecture as Strategy”という本で紹介されている概念やフレームワークを実装し適合したかを中心に講演を行った。

SOAトラックの最後は SOA ガバナンスのパネル討論であった。Robert Laird, IBM, UK が司会役を務め Clive Gee 氏, Executive Architect, IBM、 E.G. Nadhan 氏, Distinguished SE and Lead Technologist, Global Strategic Capability Management, EDS、Jerome Bugnet 氏, Enterprise Architect, BEA Systems, UK.がパネラーとして参加した。

グラスゴーで大変有意義な 1 週間を過ごすことができました。この成功に支援いただいた方々に感謝いたします。今回参加できなかった皆様とは、この後南アフリカのヨハネスブルグでお会いできることを願っております。“Enterprise Architecture Made Easy”というテーマで開催されます。その次は、特にエンタープライズ・アーキテクチャガバナンスの焦点をあて米国シカゴで開催が予定されています。

以上